

 身近なまちの話題について情報を寄せください。
広報紙に掲載された写真は差し上げますので、お気軽に問い合わせください。



① 海外から見た添田の魅力を発信 「Soeda and the Making of Modern Japan」

添田町とイギリスに拠点を置く、オックスフォード大学名誉教授のイアンニアリーさんが昨年7月に添田町の歴史について全編英語で記載した「Soeda and the Making of Modern Japan」を執筆し、寺西町長を表敬訪問しました。妻の穴井宰子さんと野田の自宅に帰省したときに英彦山などを訪れているイアンさんは「英彦山に山伏、町部で炭鉱が同時に栄えた町は日本でも添田だけです」と、本を出版するに至った経緯を町長に説明。「添田町民は山伏や炭鉱の歴史を忘れてはいけません。小学生に教えることも大切です。次は英彦山入門みたいなことを書きたい」と話していました。



↑イアンさんが執筆した「Soeda and the Making of Modern Japan」は町立図書館で読むことができます

② 笑顔が集い、炎がつなぐ地域の絆 鬼火焚き

健康や豊作を祈願する新年の風物詩「鬼火焚き」が各地区で行われました。1月18日に鬼火焚きを行った町二行政区では、今年も子どもたちが保護者と一緒に火入れ。彦山川河川敷では野田行政区が高さ5メートルほどのやぐらを組み、子どもたちが火入れを行いました。



↑(上段:町二、下段:野田)どちらも火つけは子どもが主役の中山産婦人科中山麻子院長による女性の悩み事に関する講演のあと、町社会福祉協議会の道園尊敏総務課長と脳の活性化に効果が期待できる体操で体を動かしました。

③ 120年の歴史をつなぎ、交流を深める 添田町婦人会一日研修

明治38年に慈恵婦人会として誕生して、昨年120周年を迎えた添田町婦人会が昨年の12月14日、オークホールで一日研修会を開催しました。研修では特別顧問の中山産婦人科中山麻子院長による女性の悩み事に関する講演のあと、町社会福祉協議会の道園尊敏総務課長と脳の活性化に効果が期待できる体操で体を動かしました。



↑椅子に座ったままできる体操で、会場は大盛り上がり

④ 「相続」を「争族」にしないために 男女共同参画推進セミナー「終活について考える」

オークホールで1月24日、男女共同参画推進セミナーが開かれました。一般社団法人STA R G E O R G E 代表の猿渡真吾さんを講師に迎えた今回のセミナーのテーマは「終活」。エンディングノートも配布され、参加者は自分の生き方を自分の意思で選ぶ大切さを伝えられた今回のセミナーの話を、真剣な表情で耳を傾けていました。



↑できることから少しずつやってみましょうと話す猿渡さん

⑤ 人権問題の解決に尽力します 人権擁護委員

上半淳一さん(添田東)と角崎久美さん(下落合)が1月1日付けで人権擁護委員に再任され、19日、寺西町長に報告しました。人権擁護委員は人権問題解決のお手伝いや啓発活動などを行っています。毎月第1、第3火曜日の10時から15時までそえだジョイで「心配ごと相談」を受け付けていますので、気軽に相談ください。



↑2期目の人権擁護委員を委嘱された角崎さんと上半さん

↓「地域の方に支えられ、区長業務も楽しくやっています」と話す庄中行政区長も務める奥さんと寺西町長



↑奥さんと寺西町長

⑥ 郵便局長として地域振興に貢献 奥圭三さん瑞宝双光章受章

庄郵便局の局長を30年以上務められた奥圭三さん(庄中)が瑞宝双光章を受章しました。日本大学を卒業後、昭和53年に当時の郵政省に入省した奥さんは、福岡中央郵便局や九州郵政局などの勤務を経て、平成元年に庄郵便局長を拝命。「平成19年の郵政民営化では日本郵政公社の閉鎖業務で会計を1円と狂わず合わせなければならず、また翌日からの郵便局株式会社では稼働初日にシステム稼働が遅く、お客様に迷惑をおかけし、大変でした」と振り返り「先輩や後輩など人に恵まれました。また、長年支えてくれた家族、特に妻に深く感謝しています」と喜びを語ってくれました。

⑦ 地域と郵便を結んだ功績を評価 清水正義さん瑞宝双光章受章

昭和31年に郵政省職員として採用され、平成9年までの41年間、郵便局に勤められた清水正義さん(町三)が瑞宝双光章を受章しました。30年ほどの添田郵便局勤務のあと、平成3年から田川船尾郵便局長として勤務された清水さん。「郵便局は地域密着の仕事ですので、局内のグループで地域行事によく参加していました」と振り返ってくれました。退職後は田川構内自動車で10年ほど勤務され、現在は町三老人会の副会長として地域福祉に尽力されています。「簡単にいただけない叙勲を受章でき、今まで関わってくださった皆さんに感謝しています」と笑顔で話してくれました。



↑清水正義さん瑞宝双光章受章

⑧ 消防団員として地域防災に貢献 市野正人さん瑞宝単光章受章

添田町消防団第5分団員として昭和55年から平成27年までの36年間、特に平成25年からの2年間は分団長を務めた市野正人さん(上落合二)が瑞宝単光章を受章しました。消防団在籍中は、野田の出口工務店で大工として勤務し、田川管内での仕事が多かったことから、火災発生時にはすぐに現場に駆けつけていた市野さん。「昭和61年に発生したJR彦山駅裏の高畠山での山火事の消火が大変だったことを思い出します。当日は消防団駅伝大会が開催され、選手として走った後に消火活動でジェットシーチャーを担いで山を上り下りました」と思い出を語ってくれました。

↓「火災や大雨の時など家を守ってくれた妻に感謝しています」と話す市野さんと寺西町長



↑市野さんと寺西町長